

令和2年度 兵庫県 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者基礎研修 「演習事例」及び事前課題についての案内

【 はじめに 】

本研修は、障害福祉倫理、ケアマネジメントのプロセス、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の責務、役割、等々を学ぶ研修です。個別支援計画を管理していくことも、大切な役割の一つです。

事前課題もカリキュラムに含まれ、基礎研修では重要な位置づけになりますので、不備等のないよう作成してください。

《 事前課題 》

- ① 事例にかかる資料をしっかりと読み込み、大切な語句や文章だと感じられたところに赤線を引いてください。発表等、受講者間での共有はしません。
- ② 事例にかかる資料を読み込んで、生活全般を捉えた「ニーズ整理票」を作成してください。その際、ニーズ整理の考え方を参考にしてください。作成したニーズ整理票は、コピーし、演習当日に2部持参してください。また、作成したニーズ整理票は必ず、申し込み責任者の方に確認していただき署名してください。（※ 研修当日に持参、受付で原本を提出）

《 演習当日に持参するもの 》

○事例にかかる資料一式

○ニーズ整理票を原本1部、コピー1部の計2部持参し、受付で提出。必ず、申込責任者の方に作成した内容を確認していただき署名してください。

○オンライン講義動画の報告書(合同講義(対象者)・共通講義(全員))を受付で提出。

留意事項

※事例にかかる資料は、厚生労働省が主催した国研修での事例を参考に、本研修のために事務局で作成したものですが、実際の事例を基にしておりますので、取り扱いにはご配慮ください。

※研修の申込みの際に、推薦理由を記載した申し込み責任者の方（異動等で変わられている場合は、他の方でも構いません）に、作成した事前課題を確認していただき、署名をしていただいてからコピーし、当日に提出してください。

申込み責任者と受講者が同一の場合は、第三者が確認、署名をしてください。

※各演習当日に、事前課題を忘れた、明らかに空白が目立つ（ニーズ整理が1つ～2つくらいしかできていない）場合は、カリキュラム未受講となりますので、演習は受講できません。必ず、提出できるものを作成し、忘れずにご持参ください。

※オンライン講義視聴後の報告書を必ず提出してください。提出がなければ視聴したと認められません。相談支援従事者初任者研修の講義部分（合同講義）、サービス管理責任者等基礎研修講義部分（共通講義）になります。

【問合せ先】

社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団
総合リハビリテーションセンター
福祉のまちづくり研究所 研修センター
TEL 078-927-2727(代) (内線 3712) 担当：谷垣

令和2年度兵庫県サービス管理責任者等基礎研修 事例の概要

この事例の登場人物、施設名等の名称はすべて仮称です

富士 達也 さん

記入者 支援センターあじさい 相談支援専門員 中村 洋

事例タイトル	家族との暮らしが困難になり、共同生活援助事業（グループホーム）と就労継続支援B型事業を利用しながら、地域で生活することを希望している事例
年齢・性別・ 家族構成・家 族状況・現在 の居住歴	<p>【ご本人】 富士 達也（ふじ たつや）21歳・男性 A市で生まれて以来家族と生活してきた。</p> <p>【家族構成】 現在の実家は、父親と弟の3人暮らし。</p> <p>【実父】 富士 博徳（58歳）無職 もともとは大工で、以前はとても面倒見が良く、子育ても積極的に行っていた。現在は、椎間板ヘルニアの悪化により、無職となっている。手術をしても回復は見込めず、生活保護を受給している。 何とか自分のことはこなせるが、子どもの世話をすることは、身体的にも経済的にも難しくなっている。</p> <p>【実母】 ご本人が小学校1年生の時に他界。</p> <p>【実弟】 富士 崇之（18歳）高校3年生 心身ともに問題なく普通高校に通っている。高校卒業後は就職予定だが、兄の面倒までは見られないとのこと。兄との関係は希薄である。</p>
手帳 障害支援区分	療育手帳 : 障害の程度（総合判定判定）B2 ※軽度の知的障害 障害支援区分：区分2
経済状況	家族・・・生活保護費受給により、生活しており、金銭的余裕はない。 本人・・・障害基礎年金を受給している

<p>生育歴・学齢期の状況等</p>	<p>【誕生～幼児期】（H11年〇月～H17年3月）</p> <p>○A市で2人兄弟の長男として出生。</p> <p>○初語や歩行に少し遅れはあったが、3歳児健康診査や就学時健康診断などでは特に医師や保健師の指摘事項は無かった。</p> <p>【学齢期（小学校）】（H17年4月～H23年3月）</p> <p>○小学校の1～2年生時は普通学級に通っていたが、授業中落ち着きがなく、席を立てて教室内を歩き回る、突然怒りだし友達を殴ってしまう等の行動が頻繁にあり、クラスから孤立していった。尚、小学校1年生の時に、母親が他界。以後、父親と弟の3人暮らしとなった。</p> <p>○小学校1～2年生の行動もあり、児童相談所で療育の判定を受け、軽度の知的障害の判定を受けた。</p> <p>○小学校3年生からは、自閉症・情緒支援の特別支援学級に移り、突発的な行動はあったが、学校生活に大きく支障をきたすことはなかった。</p> <p>○小学校6年生の二学期に、他生徒との学力差や学習環境に馴染めない状況により、担任からは、中学は特別支援学校への進学を勧められた。</p> <p>【学齢期（中学部）】（H23年4月～H26年3月）</p> <p>○中学はA市内にある特別支援学校に進学し、中学校での生活は太鼓部に所属し部活動では楽しく過ごしていた。</p> <p>○太鼓部の顧問は、達也さんのできるところは積極的にほめて、苦手なところは根気よく教えてくれた。</p> <p>○部活動以外では、昆虫も大好きで、昆虫図鑑を見ている時は周りの声が聞こえないほど集中していた。また、同じクラスに昆虫好きの友達がおりに、休憩時間や放課後には、昆虫の話題を中心に談笑をしている姿が良く見受けられた。</p> <p>○学校の科目としては、職業・家庭科目を最も好み、父親が大工だったこともあり、達也さんも木工に興味をもって犬小屋をなどつくった。</p> <p>○好きなことには積極的に取り組むが、興味がないと席に座っていることができない。困ったことや、興味がないことなど自分から話すこともできず、話しかけられるのを待つことが多い。</p> <p>【学齢期（高等部）】（H26年4月～H29年3月）</p> <p>○高等部に進学後も高等部の太鼓部に所属し部活動に積極的に参加していた。</p> <p>○友人関係では、中等部から仲の良かった友人も高等部に進学し、中学部時代と同様に休憩時間や放課後には、昆虫の話題を中心に談笑をしている姿がよく見受けられた。</p>
--------------------	---

	<p>○高等部生活の全般をとおして、大きな問題となるようなことはなく卒業を迎える。</p> <p>【特別支援学校高等部の元担任の主観】</p> <p>①同じような内容のことについても、理解できているときとそうでないときの差が大きい。特に集団の場面では、話したことが届かないことは多かった。</p> <p>②自分でできないときになかなかヘルプコールが出せない。</p> <p>③教えられたことを忠実にやろうとするが、思った通りにならないと、何か理由をつけてやっていることを止めてしまうことがあった。</p> <p>④人に認められたい気持ちをとても強く持っており、虚勢を張ってしまうところが度々見られた。</p> <p>⑤なかなか伝えたことが身につかないときに、繰り返し丁寧に声をかけていくと腹を立ててしまうことがあった。</p> <p>【支援目標を達成していく上で効果が認められたこと】</p> <p>①作業していく内容については、他の生徒がいない教室で、担任と一対一で見本を示しながら教示していくと、5～6工程の内容でも対応できることは多かった。</p> <p>②やるべきことについての内容とその手順は、料理のレシピのように写真を添えて文章で示すと、自分で確認しながら取り組めることが多くなった。</p> <p>【卒業後】</p> <p>○特別支援学校の高等部を卒業後は、製造部品を作る工場に就職。</p>
<p>相談経過の要約</p>	<p>○特別支援学校の高等部を卒業後は、製造部品を作る工場に就職し、面倒見の良い上司がいて達也さんも素直に対応していた。上司がわかるまで丁寧に教え、ときに叱咤激励してくれたことで、安心して働いていた。しかし、1年後（H30年4月）に上司が変わり、その上司が他の職員（障害者）の対応に追われて、達也さんにあまり気を配らなくなった。それから半年後（H30年9月）に達也さんは、父親に「上司からの注意が怖い」「仕事が集中して取り組めない」などの不安を訴えることも多く、工場に通えなくなり、そのまま退職してしまった。</p> <p>○特別支援学校高等部の元担任は、就職した数か月ほど、職場へ様子を見に行き、相談にも乗っていた。半年ほど経ってからは、落ち着いて仕事ができおり、連絡が遠のいていた。その後、退職したことも知らされていなかった。</p>

- 退職以後は、「誰とも会いたくない」と話していたが、「また楽しく働きたい」とも話す時もあった。しかし、きっかけがなく自宅での生活を続けていた。
- 自宅の生活で気晴らしの機会を作るため、父親と野球観戦に行ったことがあり、そこからテレビでも野球を觀賞するようになった。
- 達也さんが退職して半年後（令和元年4月）、大工（自営業）をしていた父親が、持病の椎間板ヘルニアの悪化により仕事ができなくなった。また、父親は生命保険などにも加入しておらず、約1年ほどは貯蓄で何とか生活していたが、経済的困窮状態となり生活保護受給となった。
- 以前は父親が家事全般を行っていたので、父親が家事を十分にできなくなったことにより家庭内は乱雑な状態となり、また、インスタントラーメンやレトルト食品ばかりの食事で偏りがあった。
- 父親から「達也の面倒をみていくことができない。何とか施設に入れてもらえないか」と市役所に相談があり、達也さんも「お父さんと離れて、自分で生活できるようになりたい」と希望し、相談支援センターあじさいでの計画相談支援事業の利用を開始（R2年4月）となった。
- 達也さんは、相談支援センターあじさいで相談を始めて、市内のグループホームや就労継続支援B型事業所への見学を行う中で「相談しながら事業所を利用したい。」「今は朝も起きられない。掃除や洗濯もできないけど、自分のことは自分でできるようになりたい」「一人暮らしに向けた準備をしたい」「もう一度働く自信はないので、そのために力をつけたい」とグループホームを利用しながら、就労継続支援B型事業所に通所することを希望した。尚、相談員から就労継続支援A型事業所や就労移行支援事業所も紹介したが、一度、失敗したという不安もあるため、まずは就労継続支援B型事業所から力をつけて行きたいと希望した。
- また、本人の生活場面についても、相談支援専門員としては、自立生活援助の利用も検討したが、①一人暮らしの経験がまだないこと ②朝起きられないことについて、他者がいる場面の方が本人にとっても刺激になり、生活リズムを作りやすいのではないかと考え、グループホームの見学を勧めた。
- 【相談支援専門員からの特記事項】**
- 達也さんからの質問はほとんどないが、こちらから話かけるとボソボソと返答する。話をすること自体は好きな様子である。
- 会話の理解力については、相手の話を「はい、はい」と返事をするので、分かっているように見えるが、すぐに理解はできていない様子。
- 達也さんの見た目は年齢相応の好青年である。ただ生活の乱れから、服装には少し汚れが目立っていた。
- 自立した生活というイメージがまだ持っていないが、周りの人の協力が得られれば、十分地域で生活できると、相談支援の担当者は考えている。

<p>ご本人が望む暮らし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「お母さんが死んでから、お父さんが一人で頑張ってくれたので、あまり迷惑はかけたくない」「自分のことは自分でできるようになりたい。」「将来は一人で暮らしたい。」と思っている。 ○「今は働く自信がないので、力をつけたい」「1人でコツコツと集中できる作業がしたい。」「働くときには優しい上司がいるところが良い。」と話している。 ○「朝はなかなか起きられない。」「掃除や洗濯、調理もできない。」「困ったときに相談できない。」(相談できない)→(伝えられない)ことに困っている。 ○趣味である「昆虫図鑑を見ることや、野球中継のテレビ観賞ができる時間が欲しいな」と話しているが、友達がうまくつくれなことを気にしていて「一緒に遊ぶ友達が欲しい」「昆虫や野球の話ができる友達ができたら嬉しい」と話している。
------------------	---

アセスメント票

記録：相談支援センターあじさい 相談支援専門員 中村 洋

相談日時	令和2年4月30日13時～15時
氏名等	富士 達也氏（男性：21歳）男性 知的障害（B2） 障害支援区分 2
望んでいる暮らし	<p>【全体】</p> <p>○父親には世話になったので迷惑をかけたくない。</p> <p>○困りごとには相談したい。</p> <p>○普通に仕事をして、一人暮らしがしたい。</p> <p>【生活面】</p> <p>○自分のことは自分でできるようになりたい。</p> <p>○将来は一人で暮らしたいが、今は、朝もなかなか起きられないし、掃除や洗濯、調理もできない。困ったときに相談できるようになりたい。</p> <p>○一緒に遊ぶ友達が欲しい、昆虫や野球の話ができる友達ができれば嬉しい。</p> <p>【就労面】</p> <p>○働く力がついたら、また工場で働きたい。</p> <p>○今は働くことの自信はないので自信をつけたい。</p> <p>○1人でコツコツと集中できる作業が好き。</p> <p>○働くときには優しい上司がいるところが良い。</p>
身体 の 状況	○特に身体機能に問題ないが、本人は最近肥満体型になってきたのを気にしている。身長175 cm 体重80キロ
精神面 の 状況	○突然怒り出したりすることは、以前に比べれば少なくなってきた。ただ自分のペースを乱されたり、急かされたりするとイライラする様子が見られる。
生活の 自立度	○朝起きるのが苦手な生活リズムがなかなか安定していない。ADLは自立している。 ○家事は手先が器用なので練習すればできるようになると考えられ、やり方や手順について確認する必要がある。
気持ちの 自立度	○家を離れた暮らしは全く経験したことがないので、初めは戸惑うこともあると思われる。また、自分の思い通りにならないと、他の方とトラブルになる可能性もあるので、イライラしそうなときには早めに職員に伝えられると、トラブルが軽減できると考えられる。
服薬状況	現在は投薬なし
経済状況	<p>【収入面】 障害基礎年金</p> <p>【支出面（今後の見通し）】 グループホームの費用 家賃30,000円（家賃助成20,000円） 食費20,000円 光熱水費15,000円 日用品費 3,000円 生活費（おこづかい）20,000円</p> <p>※特定障害者特別給付の対象者であり、国と市町から家賃助成20,000円あり。</p>
趣 味	○昆虫の図鑑を見たり、野球中継のテレビ観賞。 ○手先が器用なので木工が好き。菓子・ケーキ等の買い物など

キーパー ソン	<p>富士 博徳 氏 (実父) 仕事で椎間板ヘルニアが悪化し、自分のことで精一杯な様子。</p>
家 族	<p>【同居の家族】 富士 博徳 氏(実父)、富士 崇之 氏(実弟) 【別居の家族】 父方母方の祖父母について 父方の祖母は県外（遠方）にいるが、父方の祖父、母方の祖父母は他界している。母が生きていた頃は、年1回は家族で両祖父母に会いに行っていた。</p>
就 労	<p>○手先が器用で興味をもつと集中できる。また、面倒見がいい人の話は素直に聞くことができる。しかし、以前の工場での仕事の経験から「人に会うのが怖い」「また注意されるのが心配」と不安感を述べる。</p> <p>○「1人でコツコツと集中できる作業が好き。」「働くときには優しい上司がいるところが良い」「普通に仕事をしたい」といずれしっかり働きたいという意欲はある。</p> <p>○移動手段は、徒歩。公共交通機関は、これまでほとんど利用したことがないが、練習すれば利用できそうである。</p>

アセスメントシート

氏名 富士 達也

記入者 相談支援専門員

中村 洋

	項目		介助が いるか	程度	項目		介助が いるか	程度	
	日常生活面	起居動作	起き上がり	<input type="checkbox"/>	介助不要	衛生保持	手洗い	<input type="checkbox"/>	介助不要
寝返り			<input type="checkbox"/>	介助不要	爪切り		<input type="checkbox"/>	介助不要	
姿勢保持		座位	<input type="checkbox"/>	介助不要	耳掃除		<input type="checkbox"/>	介助不要	
		立位	<input type="checkbox"/>	介助不要	月経		<input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
移動		屋内	<input type="checkbox"/>	介助不要	行排 為池	排尿	<input type="checkbox"/>	介助不要	
		屋外 (徒歩)	<input type="checkbox"/>	介助不要		排便	<input type="checkbox"/>	介助不要	
衣類着脱		着脱行為	<input type="checkbox"/>	介助不要	食事全般	飲食行為	<input type="checkbox"/>	介助不要	
		服装の選択	<input type="checkbox"/>	介助不要		食事状況	<input type="checkbox"/>	介助不要	
整容行為		歯磨き	<input checked="" type="checkbox"/>	時々めんどうになり声掛けが必要		調理全般	食事の後片付け	<input type="checkbox"/>	介助不要
		洗顔	<input checked="" type="checkbox"/>	時々めんどうになり声掛けが必要	調理		<input checked="" type="checkbox"/>	やったことがないので支援が必要	
		整髪	<input checked="" type="checkbox"/>	時々めんどうになり声掛けが必要	安全確認		<input checked="" type="checkbox"/>	やったことがないので支援が必要	
		ひげ剃り	<input checked="" type="checkbox"/>	時々めんどうになり声掛けが必要	入浴全般		入浴の準備と片付け	<input type="checkbox"/>	介助不要
		化粧	<input type="checkbox"/>	介助不要			入浴	<input type="checkbox"/>	介助不要
家事全般						洗濯	<input checked="" type="checkbox"/>	やったことがないので支援が必要	
					洗濯物干し	<input checked="" type="checkbox"/>	やったことがないので支援が必要		
					掃除	<input checked="" type="checkbox"/>	やったことがないので支援が必要		
					衣類整理	<input checked="" type="checkbox"/>	片づけなどは苦手、声掛けが必要		
						所持品整理	<input checked="" type="checkbox"/>	片づけなどは苦手、声掛けが必要	
						ペットメイク	<input type="checkbox"/>	介助不要	
<p>特記事項</p> <p>○父親がある程度身の回りのこと（調理、洗濯、掃除など）はやっていた。 ○積極的に身だしなみを整えたり、片づけたることも苦手だが、声掛けがあればなんとか自分でできる。 ○物が多く、部屋に服や小物類が溜まってしまふ。 ○日常生活でやらなければならないことの優先順位がつけられない。 ○家事をやった経験がないが、援助があればできるようになると予測できる。 （今までの生活の様子から、父親が予測）。 ○朝起きるのが苦手なので、就労継続支援B型の事業所に通う時には遅刻が頻回になることが心配される。</p>									
コミュニケーション	<p>困ったときに相談しているところ【生活上の支援機関、支援者など】</p> <p>サービス等利用計画作成、相談支援 …… 相談支援センター「あじさい」 利用予定の就労継続B型事業所 …… 就労センター「スマイル」 利用予定のグループホーム …… グループホーム「ピアハウス」 外来通院先 …… 西村総合医療（精神科含） ※現在は通院なし</p>								
	<p>意思の表現方法</p> <p>○日常的な内容であれば、言葉でのコミュニケーションが十分できる。 ○最初の上司が仕事を教えていた時は、時間がかかるが分かるまで教えてくれたので、本人も安心して仕事できていた。手順が分かれば、呑み込みが早い。 ○自分から積極的に質問するタイプではなく、困ったことや心配なことがあっても自ら相談することができなかつた。周りの人は分かっていると思って仕事をすすめてしまうので、本人は分からずに少しパニックになってしまうことがあつた。</p>								
社会参加・移動	<p>【好きなこと】 ○昆虫の図鑑を見たり野球中継等のテレビ鑑賞。手先が器用で木工が好き。買い物やゲームなど</p> <p>【嫌いなこと・苦手なもの】 ○怖そうな人・すぐに怒りそうな人</p> <p>【移動の方法】 ○徒歩。これまで公共交通機関を利用する機会はなかつたが、練習すれば利用できそう</p>								
家庭生活	<p>○グループホームで生活をする予定</p> <p>家庭での主な介護者 介護者の状況 もともとは大工。椎間板ヘルニアの悪化により、自身のことで精一杯 実父</p>								
経済状況	<p>主な生活財源 預貯金 就労による収入 0円/月 0円</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基礎年金申請中 <input type="checkbox"/> 障害者特別手当 <input checked="" type="checkbox"/> その他</p> <p>金銭管理は、仕訳を手伝えばその金額の中で使用することは可能。ただし欲しい物（菓子・ケーキなど）買いたい気持ちが高まると、浪費してしまうことがある。</p>								

項目	介助が いるか	程度		
			項目	
行動面での障害1	こだわり行動	<input checked="" type="checkbox"/>	自分の手順があり、変更されるとパニックになる	
	徘徊	<input type="checkbox"/>	特になし	
	無断外出 無断外泊	<input type="checkbox"/>	特になし	
	錯覚・幻視・幻聴	<input type="checkbox"/>	特になし	
	被害妄想	<input type="checkbox"/>	特になし	
	自殺願望・企画	<input type="checkbox"/>	特になし	
	不潔行為	<input checked="" type="checkbox"/>	声掛けがあれば身だしなみを整えるが、放っておかれると着替えたりできない。	
	異食行為	<input type="checkbox"/>	特になし	
	収集癖	<input type="checkbox"/>	特になし	
	物忘れ	<input type="checkbox"/>	特になし	
	反社会的行為 (盗癖、虚言など)	<input type="checkbox"/>	特になし	
	行動面での障害2	自傷行為	<input type="checkbox"/>	特になし
		他者に対する粗暴行為	<input type="checkbox"/>	特になし
器物に対する粗暴行為		<input type="checkbox"/>	特になし	
奇声や騒がしさ		<input type="checkbox"/>	特になし	
パニック		<input checked="" type="checkbox"/>	物事の進め方が分からないと起きる。	
多動・行動の停止		<input type="checkbox"/>	特になし	
思考障害		<input type="checkbox"/>	特になし	
感情・思考の障害	感情不安定	<input checked="" type="checkbox"/>	困ってしまうと感情も不安定になる。	
	過大・過小評価	<input type="checkbox"/>	特になし	

特記事項

○特別支援学校卒業後は、製造部品を作る工場に就職していた。面倒見の良い上司の元では、素直に支持を受け入れ、元上司も根気よく教えてくれていたらしく、安心して働いていた。上司が変わり、あまり面倒を見てもらえなくなってからは、「上司からの注意が怖い」「仕事が集中して取り組めない」など心配を訴え退職した。

○本人は、周りの人からは仕事のことなど分かっていると思われるタイプで、仕事が断れない。

○仕事で困っていても、自分から相談したりできず、どんどん抱え込んでしまい不安をたくさん抱えてしまう。

○1年半ほど仕事をせず、自宅で生活していた。父親の椎間板ヘルニアの悪化により、本人の面倒が見られなくなった。

○声掛けがあれば、家のことを少し手伝ったが、どのように進めれば良いのか分からなくなってしまふことが度々あった。

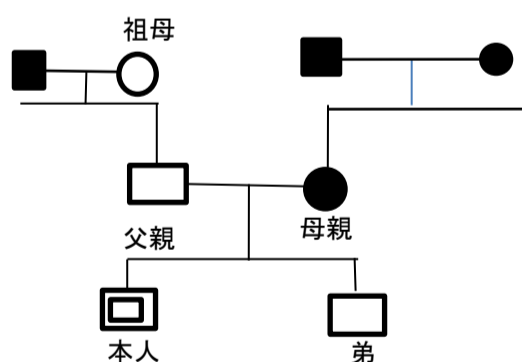
○調理、洗濯、掃除の仕方など根気よく教えてくれる人がいなかったため、経験が積み重なったのだと思う。

○仕事についても、以前の会社で人間関係がこじれてしまって退職したため、働きながら何か困ったときには相談できること、サポートを受けながら就労できるB型事業所の利用を希望した。

○見守りの環境が整えば、力を発揮することは可能だと感じる。

《その他》

主治医からは、本人が困っている時に周りが気づける関係性ができると、生活や精神的な安定が可能。そのためには生活の場でのサポート体制は欠かせない。SOSを出す力をつけられると思っている。



演習 事例

■グループホーム・就労継続支援事B型業所及び地域の状況

【グループホーム】

- ・介護サービス包括型
- ・夜間支援体制はなし。緊急連絡体制の整備あり。
- ・入居定員 16名 (グループホーム4名定員 4か所)
- ・定期的に季節行事、食事会、世話人との買い物あり。
- ・世話人業務・・・介護や介助を行わず、家事援助をし、ご利用者の良き相談者、理解者となる身近な職種。
- ・生活支援員・・・介護や介助をメインとするご利用者の良き相談者、理解者となる身近な職種。

【就労継続支援B型事業所】

- ・多機能型事業所
 - 就労継続支援B型事業所 定員 40名
 - 就労移行支援事業所 定員 20名
- ・サービス提供日・時間 平日 9:00～16:30
- ・主な作業内容

施設内作業	工賃
◆受託作業 (アンテナ組立、菓子箱組立、金属部品組立)	・基本工賃 約3万円
◆自販機管理作業 (商品発注、補充、売上集計他)	
◆清掃作業 (館内清掃他)	
◆食品加工作業 (パン・弁当の製造販売)	
施設外作業	
◆特養施設の作業 (居室、廊下等の清掃他)	

- ・利用者の主たる障害は知的障害だが、身体・精神の重複障害がある方や発達障害のある方も利用されている。
- ・同一法人内に自立訓練の事業もあり。
- ・職業指導員・・・就労のための技術指導や訓練指導を行い、生産活動・生活のサポート、相談を行います。
- ・生活支援員・・・就労のための技術指導や訓練指導を行い、生産活動・生活のサポート、相談を行います。

【地域の状況】

- ・グループホーム、就労継続支援B型事業所は、同一市内に位置し、徒歩で15分ほどの距離。
- ・最寄駅 (A駅) は、両事業所から徒歩で20分ほどの距離。
- ・富士達也さんの自宅の最寄駅から、A駅までは電車で3駅目となる。
- ・人口約150万人の政令指定都市で、県庁所在地などの主要都市までは電車で20分程度であり、交通の便は整っている。
- ・近隣には商店街があり、買い物等の利便性は高い。
- ・地域の自立支援協議会の運営により、少しずつではあるが事業所間の連携ができてきている。
- ・相談支援センターあじさい、総合病院、複数の社会福祉法人、NPO法人もあるため、障害福祉サービスは受けやすい環境である。

サービス等利用計画・障害児支援利用計画（案）

利用者氏名（児童氏名）	富士 達也	障害支援区分	区分2	相談支援事業者名	相談支援センターあじさい			
障害福祉サービス受給者証番号	000XXX####	利用者負担上限額	0	計画作成担当者	中村 洋			
地域相談支援受給者証番号	000XXX???	通所受給者証番号	000XXXSSS					
計画作成日	令和2年6月30日	モニタリング期間（開始年月）	令和2年6月30日	利用者同意署名欄				
利用者及びその家族の生活に対する意向（希望する生活）	<p>達也さん：私は、父親には今まで世話になったので、迷惑はかけたくない。普通に仕事をして、自分のことは自分でできるようになり、いずれは一人暮らしがしたいと思っています。今は、朝も起きられないし、働く自信もないので、その為の準備をしたいです。また、困った時は相談をしたいけど、うまく伝えるのが苦手なので、うまく伝えられるようになりたい。昆虫の話ができる友達がほしい。</p> <p>お父さん：今までは、なんとか自分がと思っていたが、私自身の体が不自由になってしまい、達也のことがみていくことができなくなってしまった。達也には福祉サービスを利用して自立した生活をしてほしい。</p>							
総合的な援助の方針	グループホームと就労継続支援B型を利用することで、生活のリズムを整え、生活場面と就労場面で必要なスキルを身につけていく。できることが増えることで、ご本人の自信につなげていくことを目指していく。							
長期目標	① グループホームでは、生活リズムを整え、掃除や洗濯、調理等、生活していく上で必要な力をつける。② 就労継続支援B型事業所では、仕事を続けていくうえでの自信をつける。③ 相談する力をつける。④ この間に見つけた昆虫等の趣味を通じた友達を作り生活上の楽しみを継続する。							
短期目標	① グループホームの日常生活に慣れる。② 就労継続支援B型事業所の作業に慣れる。③ わからないことや困っていることを相談する。④ 昆虫図鑑、野球のテレビ中継等の鑑賞の趣味や、友だちを作る生活上の楽しみについて相談する。							
優先順位	解決すべき課題（本人のニーズ）	支援目標	達成時期	福祉サービス等		課題解決のための本人の役割	評価時期	その他留意事項
				種類・内容・量（頻度・時間）	提供事業者名（担当者名・電話）			
1	グループホームで一人暮らしに向けた準備をしたい。	グループホームを利用することで、生活リズムを整え、掃除や洗濯、調理等自分でできることを増やす。	12ヶ月	種類：共同生活援助 内容：共同生活を営むべき住居において行われる相談、入浴、排泄又は食事の介護その他の必要な日常生活上の援助を行う。 量（頻度）：当日日数（毎日）	提供事業者名：ピアハウス 担当者名：サービス管理責任者 ○○ 生活支援員 ○○ 世話人 ○○ 電話：000(00)0000	①スケジュールを覚えて生活リズムを身に着ける。 ②掃除や洗濯、調理の仕方は、世話人さんに教えてもらいます。	3ヶ月	※朝なかなか起きることができない。
1	今は働くことに自信がないのでそのための力をつけたい。	①いろいろな作業経験を積んで得意なことを見つける。 ②作業内容(工程や量、範囲)の伝え方など、本人にとって分かりやすい方法を確立する ③自力通所の練習に付き添う(送迎加算の範囲で実施できないか)	12ヶ月	種類：就労継続支援B型 内容：生産活動その他の活動機械の提供その他の就労に必要な知識及び能力向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う。 量（頻度）：当日日数-8日（月～金）	提供事業者名：スマイル サービス管理責任者 ○○ 生活支援員 ○○ 職業指導員 ○○	①就労継続支援事業所での作業を通して経験を増やします。 ②作業内容を理解し、見通しを持って、作業ができるようになる ③スマイルまで自分で行けるようになる	3ヶ月	※朝なかなか起きることができない。
3	困りことは相談したい。	生活のこと、仕事のことなどで困ったり、不安だったりしたことを相談できるようにする	6ヶ月	種類：共同生活援助 内容：共同生活を営むべき住居において行われる相談、入浴、排泄又は食事の介護その他の必要な日常生活上の援助を行う。 量（頻度）：当日日数（毎日） 種類：就労継続支援B型 内容：生産活動その他の活動機械の提供その他の就労に必要な知識及び能力向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う。 量（頻度）：当日日数-8日 種類：相談支援事業 内容：相談支援及び関係機関との連絡・調整 量（頻度）：随時 種類：医療機関 内容：医療的支援（外来受診） 量（頻度）：4週間に1回（土）	提供事業者名：ピアハウス 担当者名：サービス管理責任者 ○○ 電話：000(00)0000 提供事業者名：スマイル 担当者名：サービス管理責任者 ○○ 電話：000(00)0000 提供事業者名：あじさい 担当者名：相談支援専門員 ○○ 提供事業者名：西村病院 担当者名：○○医師	①グループホームで一日の出来事を報告します。 ②仕事については、就労継続支援事業所で相談します。 ③服薬をして、定期的に通院し、体調についての相談をします。	1ヶ月	※本人から相談があった時に、相談できたことに対して、言葉がけ等で評価し、本人の意欲や自信につながるようにしていく
4	楽しみをみつけない。	昆虫図鑑の鑑賞、野球中継等のテレビ鑑賞の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて話を聴かす。	6ヶ月	種類：共同生活援助 内容：共同生活を営むべき住居において行われる相談、入浴、排泄又は食事の介護その他の必要な日常生活上の援助を行う。 量（頻度）：当日日数（毎日） 種類：就労継続支援B型 内容：生産活動その他の活動機械の提供その他の就労に必要な知識及び能力向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う。 量（頻度）：当日日数-8日（月～金） 種類：相談支援事業 内容：相談支援及び関係機関との連絡・調整 量（頻度）：随時	提供事業者名：ピアハウス 担当者名：生活支援員 ○○ 電話：000(00)0000 提供事業者名：スマイル 担当者名：生活支援員 ○○ 電話：000(00)0000 提供事業者名：あじさい 担当者名：相談支援専門員 ○○	①昆虫図鑑の鑑賞、野球中継のテレビ鑑賞等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて話を聴かせてください。	3ヶ月	

サービス等利用計画案・障害児支援利用計画案【週間計画表】(案)

利用者氏名(児童氏名)	富士 達也	障害支援区分	2	相談支援事業者名	相談支援センターあじさい
障害福祉サービス受給者証番号	000XXX###			計画作成担当者	中村 洋
地域相談支援受給者証番号	000XXX???	通所受給者証番号	000XXXSSS		

計画開始年月	令和2年6月30日
--------	-----------

	月	火	水	木	金	土	日	主な日常生活上の活動
6:00								スマイル(就労継続支援B型) ピアハウス(共同生活援助)
8:00	起床・朝食	起床・朝食	起床・朝食	起床・朝食	起床・朝食	起床・朝食	起床・朝食	
10:00	スマイル(就労継続支援B)	スマイル(就労継続支援B)	スマイル(就労継続支援B)	スマイル(就労継続支援B)	スマイル(就労継続支援B)			
12:00								
14:00								
16:00								週単位以外のサービス
18:00	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	
20:00	入浴	入浴	入浴	入浴	入浴	入浴	入浴	
22:00								
0:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	
2:00								
4:00								

サービス提供によって実現する生活の全体像	<p>日中活動場面では、スマイル(就労継続支援B型)を利用して、様々な作業を体験していくことで、自身の得意なことや好きなことを見つけていく。出来る事が増えていくことで、企業就労に向けて自信を持って行く。また、程度にもよるが、昆虫や野球など、好きな事に対して工賃を使う楽しみを覚えることで、働くことに対する意欲が持てるようになっていく</p> <p>生活場面では、ピアハウス(共同生活援助)での生活を通して、生活リズムを整え、生活上必要なスキルを身につけていく。集団生活の中で、本人が自立した生活に向けてイメージを持てるようになっていく</p> <p>それぞれの場面での他者との関わりから、困りごとなど、自身の思いを発信できるようになる</p>
----------------------	---

ニーズの整理票

利用者名 富士 達也 さん

優先 順位	サービス等利用計画で整理され た本人の思い(願いや希望)	初期状態の評価 (利用者の状況・環境の状況)	支援者の気になること・推測できる こと(事例の強み・可能性)	願いや希望を満たすための具体的な解 決すべき課題(本人のニーズ)
個別 支援 計画 に 反 映 整 理 を す る た め に 優 先 順 位 を 付 け ま す	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰」の願いや希望かを明確にして記載することがポイント ・家族の願いや願いと本人の願いや願いを混同しないように、分けて整理する ・本人の言葉にできない願いや成長したいという願いを丁寧に読み取っていく事が大切 ・必ずしもサービス等利用計画だけに捉われず、他にも希望や願いがないか考えてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取り調書、基本情報、アセスメント票等(今回の場合は事例概要)に記載されている情報から、左記に挙げたニーズに該当する事実を抽出する ・「できていること」と「できないこと」に加えて、「部分的にできる」「次のステップへの芽生えが見える」ところも見つけていく ・特性・環境面(関わり方も含む)の状況など ・参考とする書類に、すでに記載者の主観が入っている可能性にも留意する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「支援者が気になる」等と思う根拠を伝える(特性や環境面から生じる問題などの原因の推測等) ・強みに注目し、ポジティブにとらえることで可能性につなげる ・障害特性や家庭環境、地域資源等の一般的なイメージから推察される「強み」に留めず、支援者の視点で具体的な可能性を探り記載する 	<ul style="list-style-type: none"> ・解決すべき課題の主語を明確化することでどこにアプローチすべきかが定まる ・苦手さの克服ではなく、強みを伸ばす、困り感を改善するという観点から考える ・ここで挙げられた記載内容が、「個別支援計画」の具体的な支援内容に繋がる

ニーズの整理票

整理番号 基礎 _____

氏 名 _____

優先 順位	サービス等利用計画で整理され た本人の思い(願いや希望)	初期状態の評価 (利用者の状況・環境の状況)	支援者の気になること・推測できる こと(事例の強み・可能性)	願いや希望を満たすための具体的な解 決すべき課題(本人のニーズ)

上記、事前課題を確認しました。

申込責任者氏名 _____